

滋賀八幡病院を取り巻く環境と現状・精神科医療について

今年で**創立72年**になる当院の使命は、東近江医療圏における唯一の精神科単科病院として、良質な精神科医療を今後もずっと提供し続けていくことを考えています。

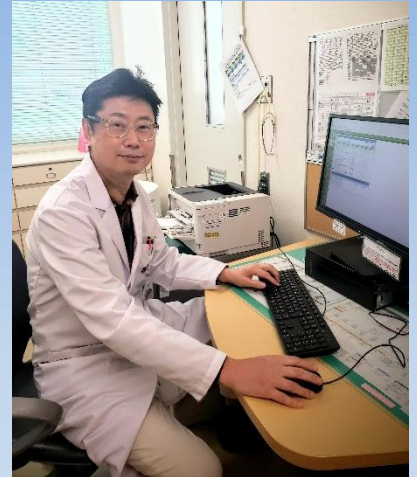
滋賀県が人口減少し始めてから久しいですが、東近江医療圏も全体としては人口減少していくなか、**高齢者はまだ増加**しています。それを反映してか、近年は新規に入院していただく患者さんのほぼ3分の1が認知症で占められています。また、現在入院中の患者さんの3分の2が70歳以上で占められており、今後もその割合は増加していきそうです。

介護抵抗、妄想、徘徊、暴力など自宅や施設では対応困難な認知症の患者さんに対し、環境や対応を工夫したり、お薬を調整したりして、自宅や施設へ退院していただけるよう努めています。高齢の患者さんが増えると、転倒、転落、誤嚥、窒息などの事故や、様々な身体合併症が増えがちとなります。**事故には細心の注意をはらいつつ**、必要時には迅速に身体的治療を受けられるよう地域の**総合病院との連携**を深めています。

また、従来は長期入院患者さんの多数を占めていた統合失調症。ストレス社会で増加の一途をたどるうつ病、躁鬱病などの気分障害。これらの患者さんに対しては急性期病棟（職員の配置を厚くして濃密なケアに努め、早期の回復を目的とし、原則3ヶ月以内の退院を目指した病棟）を活用し長期の入院に至らないように努めています。

これに加えて在宅での生活を支援する**訪問看護**、**訪問介護**、**居宅介護**の提供。日中の活動性を高めたり、就労支援したりと社会復帰のステップとなる**精神科デイケア**。

諸事情により自宅への退院が困難な方に**グループホーム**に入所いただいたり、他院の運営する援護寮への入所に繋げたりもしています。この他にも行政や地域の支援者との連携をはかるなど、**切れ目のない形で患者さんを支援し**、ご家族も含めて**安心して地域で過ごしていただき**、**社会に復帰**できるよう活動しています。



院長 濱名 優

精神科医療を通じて地域に貢献し、頼っていただける病院を目指して今後も職員一同頑張っていますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



認知症疾患医療センターおうみのご紹介。



認知症疾患医療センター おうみは、認知症の早期発見、早期治療を目指し、認知症に関する専門医療相談や認知症の鑑別診断を行っています。認知症かな？と思ったらまずはお相談ください。

専門医療相談員がご本人の様子をお伺いし、必要に応じて鑑別診断のための検査・診察の調整をいたします。診察では検査結果やご本人との面談、ご家族の情報などから認知症かどうかを診断し、結果を説明いたします。

※鑑別結果はかかりつけ医にもお知らせしますので、通い慣れた診療所や開業医、病院で治療を継続することが出来ます。



- ➡ 相 談 日 月～金曜日
(土日・祭日・年末年始除く)
- ➡ 相 談 時 間 9:00～16:00
- ➡ 相談方法 来院・面談・電話相談
- ➡ 直通番号 0748-33-7106

外来診療予定表

	月	火	水	木	金	土
1 診		青木	濱名	青木	濱名	齋藤 (第 1.3.5 週)
2 診	山路	山枡	石倉	齋藤	山枡	佐藤 (第 2・4 週)
3 診	佐藤	山本	山路	榎本	佐藤	石倉
4 診	榎本	吉川	齋藤	青木(宣)	吉川	—
5 診	—	—	廣田	—	正木	—
内科	—	—	足立	—	鈴木 (総診)	—
循環器	—	—	—	—	—	蘆原

外来診療は予約制です。

事前にお電話でご確認ください。

- ・診療時間：午前9時 ～ 午後5時
- ・診療日：月曜日～土曜日
土曜日は平常通り診療しております。
- ・休診：日曜 祝祭日
年末年始 (12/29～1/3)

☆ 受診の際は健康保険証お忘れなく。



令和 6 年 5 月吉日 発行

発行者 公益財団法人青樹会 編集者 公益財団法人青樹会 広報委員会
連絡先 広報室 代表番号 0748-33-7101

患者総合支援室の紹介と取り組み

皆様こんにちは。患者総合支援室副室長の北村と申します。当支援室は令和5年6月より稼働し、患者様・ご家族様・地域の方々のために、入院前から退院後(地域から外来・外来から入院・退院から地域生活)までどの環境においても質の高い支援が受けられる体制づくりを強化するために、各部門の多職種が連携し、サービスや満足度の向上に向けて取り組んでいます。これまでの活動の一部を紹介させていただきます。



地域医療連携部
副部長 北村 誠

1、【院内掲示板の設置】

病院からの情報周知をより分かりやすくするために書式を統一し、掲示場所を集約すべく1階外来フロアに「外来患者さま用」、「入院患者さま用」と2か所に掲示板を設置いたしました。



患者さまやご家族さまが待ち時間にも情報を得ることができ、外来診察室ドアへの掲示も整理いたしました。今後も、できる限りタイムリーな情報を集約して提供できる様に継続してまいります。

2、【1階外来フロア展示物の設置】

院内でも季節感が感じられるように、季節時期に応じて12月にはクリスマスツリー、3月にはひな人形、5月には鯉のぼりを展示させて頂きました。

*写真をご覧ください。7月には七夕の展示を考えております。



外来患者さま、そのご家族さま、入院患者さまなどに、とても好評で、中には写真を撮る方も拝見いたしました。今後も少しでも季節感を感じて頂き、安心し「ほっ」とした空間が更に提供できる様に活動してまいります。

最後に、まだまだ発展途上の組織ですが、患者様、ご家族様目線に立ちどのようなことを求められているか常に情報のアンテナを張り、室員メンバーが中心となり、その他各部門と連携深めながら活動してまいります。



ソーシャルスキルトレーニング VR「FACE DUO」を導入しました！

ソーシャルスキルトレーニング（以下 SST）は、社会生活を送る上で必要なスキル（技能）を磨くトレーニングです。

地域で暮らす、人とのかかわる、働く、といった場面で役立つスキルを、知識の習得と実践によって学ぶことで、参加者自身が「できるようになりたい！」と思うことを実践するのに役立っています。

今回、FACEDUOを導入することによって、そういったスキルを、バーチャルリアリティ（以下 VR）技術を通して各自が体験的に学ぶことが出来ます。



FACEDUO では、様々なコンテンツが用意されており、大きく「**地域生活準備編**」「**日常生活編**」「**仕事編**」「**ひきこもり家族支援**」等に分類されています。さらに細かくコンテンツテーマに分かれています。それぞれのコンテンツが「①状況体験」「②工夫の発見」「③練習」の3セクション、計15～18分の動画で構成されています。

当院での使用例は、まだ導入後日が浅く、それほどありませんが、今後、以下の活用法が期待されます。

① 各病棟 SST での使用：

- テーマが明確であり、開始時の緊張の緩和からスキルトレーニングへの移行がスムーズに出来ます。また、問題提起が動画によってなされ、特に VR ゴーグルを使用すると、1人称でのカメラ目線が、まるでその場にいるような臨場感で体験できます。
- テーマを自分の事として捉えやすく、意見や自身の考える工夫が出やすくなる傾向にあります。また、得られたスキルを練習する機会もあるため、日常生活でのスキルの実用化が容易です。
- また、SST の質が、進行促進役の熟練度に大きく左右されないのも特徴です。

② デイケアプログラムでの使用：

- 当院デイケアは、一日平均34名の利用者が来られます。プログラムも多様にありますが、セミナー形式で行うプログラムでは、FACEDUOのコンテンツが大いに役立っています。「共通の楽しみを見つける」「望まない助言を否定せずに受け流す」といった、実生活で直面するであろう課題を、臨場感を感じながら一緒に体験することが出来ます。
- 就労支援プログラムでの使用：デイケアの利用者の中には、就労移行を目的としている方もいらっしゃいます。「仕事編」のコンテンツは、実際の就労場面に起こるであろう困り事を、コンテンツを通して擬似的に体験することが出来ます。初めての就労となる利用者も、VR ゴーグルを着用しての取り組みで、起こりうるトラブルを想定して対策することが出来ます。



これからの、VR を活用しての取り組みに、是非
ご期待ください！！